

平成28年度 弘前大学グローバル人材育成事業 学生海外PBLプログラム 報告書

申請者 (代表者)	所属部局・職名	人文社会科学部・教授
	氏 名	李 永 俊
事業名	「地域を担う人材育成と地域活性化のモデルの構築」を題材とした国際交流PBLプログラム	
事業の概要とその成果		
<p>【派遣者(引率教員, 参加学生)】</p> <p>引率教員 李永俊 参加学生 8名</p> <p>【実施期間】 平成 28年 7月 10日～平成 28年 7月 15日</p> <p>【事業概要とその成果】 本事業では、経済学の基礎的知識をPBL学習を通して可視化できるかを受講者の達成度の評価基準としているために、基礎科目と専門科目で学んだ知識を実践で応用する能力を養うことが期待される。また、現地の学生との異文化コミュニケーションや、卒業後の進路選択や教育プログラムという学生にとって最も関心の高い共通の課題に対してのグループディスカッションを行うことで、自己表現力、実践的英語力などを学ぶことができる。また、本事業では、大学生の地域志向就業意識が強まることも期待できる。そして、地域貢献面では、双方交換PBLプログラムを通して、交流人口の増加、地域経済活性化、留学生の誘致などの直接的な経済効果が期待できる。長期的には、若年者、特に大卒者の人口流出抑制、日韓両地域間の交流人口の増加などを通して持続可能な地域づくりに貢献することを目的に実施した。</p> <p>本事業では、7月3日から9日まで韓国慶北大学校から21名の学生が弘前を訪問し、本学の学生が弘前を案内しながら、地域の強みと課題を韓国の学生と一緒に英語で議論し、経済学の基礎知識を用いて解決策を模索した。また、7月10日からは日本の学生が韓国を訪問し、韓国デグ市の地域課題とその解決策について議論を深めた。合計2週間に渡る交流を通して、異文化コミュニケーションはもちろん実践的英語力、自己表現力を十分に養うことが出来たと思う。また、それぞれの地域を相手国の学生に説明するために、地域に対する理解を深める良い機会になった。そして、地域課題の解決策を模索する過程で、基礎科目と専門科目で学んだ知識を実践で応用する能力も学べたと思う。経済学の基礎的知識をPBL学習を通して可視化できるかを本事業の受講者の達成度の評価基準としていたが、今回の事業では100%達成できたと評価できる。</p> <p>その他、韓国学生が日韓路線を利用し、本県を訪ねたことで、本県の唯一の国際路線の維持及び7週間に渡る滞在を通して地域経済への一定の波及効果があったと思われる。また、日韓の若者に対して民間交流のきっかけを作ることで、日韓両地域間の交流人口を増やすことに一定の貢献ができたと評価できる。</p>		